

別紙 2-1

保護者・当事者向け

1. はじめに

1) ご回答者について

- ・ご自身に合うものを下記から選んでください。
保護者 当事者 その他 [_____]
- ・お住まいの地域をお書きください。
[_____ (都・道・府・県) _____ (市・町・村)]

2) お子さん(当事者の方はご自身)について

- ・年齢をお書きください。[_____ 才]
- ・診断名がある方はお書きください。[_____]

2. 支援サービスの提供についての質問

以下に示す 10 項目は、発達障害のある人たち（児および者）に必要と思われる支援サービスの提供にかかわる体制・環境等についてリストアップしたものです。これらの 10 項目から「あなたが支援サービスを受ける際に必要であると思われる項目」5 項目を選び記入して下さい。

() () () () ()

1. スタッフの教育がされている。
2. スタッフ教育の時間が充分である。
3. 実践の場を通してのスタッフ教育（スーパーヴィジョン含む）がされている。
4. 一般の授業形式（座学）で支援・授業がされている。
5. 施設外のスタッフを招いたり、施設外の研修に参加しているか
6. 障害者権利条約批准に関わる社会状況の学習
7. 障害特性に応じたサービスをすること
8. 個別のアセスメントに基づいた支援計画を立てること
9. 利用者一人当たりのスペースが十分であること。
10. 感覚問題に配慮した環境調整がされていること。

3. 支援サービスの具体的内容についての質問

1) 支援サービスの中で行ってほしい配慮（環境調整）についてお聞きます。

以下に示す 24 項目の内容は、発達障害のある人たち（児および者）に必要と思われる配慮（環境調整）をリストアップしたものです。

これらの 24 項目の内容から「あなたが支援サービスの中で満たしてほしい内容」を 10 項目選んでその項目番号を以下に記入して下さい。

() () () () ()
() () () () ()

1. 書字情報を音声化して情報伝達すること。
2. 活動中・作業中にリマインダーを使用すること。
3. 情報の内容と量を本人の理解力に合うように調整すること。
4. 1日のスケジュールや次の活動内容を事前に提示すること。
5. ICT（例えば、タブレットなど）の使用。
6. 本人が読みやすい背景色と文字色の組合せを使うこと。
7. 感覚過敏に配慮すること。（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）
8. 扱いやすい道具や教具の準備（持ちやすい食事具やコンパスなど）
9. ワープロや計算機の使用を認めること。
10. 本人の状況理解のペースを尊重すること。
11. 活動や作業に不要な刺激や情報を撤去すること。
12. 曖昧さのない明確でわかりやすい情報提示の工夫。
13. 作業や活動の手順書を準備すること。
14. 視覚的な情報提示やコミュニケーション方法の使用（文字、絵文字、絵カードなど）。
15. 到達目標のある課題（テスト等）の時間延長。
16. 一対一のコミュニケーションを基本とすること。
17. 口答での伝達を簡潔でわかりやすいものとする。
18. 本人の注意集中の持続時間に見合う課題の小ステップ化やゴール設定を行うこと。
19. 姿勢が安定するような補助具の使用（座位の補助マットなど）
20. 本人に合わせて活動中・作業中の休憩を適宜とること。
21. 漢字のふりがなや拡大文字などのわかりやすい情報伝達の工夫。
22. 同時に複数の作業や活動を求めないこと。
23. 本人の活動のペースを尊重すること。
24. カームダウンエリア（気持ちが乱れた時に落ち着くための場所）を設定すること。

2) 支援サービスに必要と思われるその他の内容についてお聞きします

支援サービスに以下の内容がどの程度必要と思うかについて、以下の4段階のいずれかを塗りつぶして（■）答えて下さい。（以下は回答の仕方の例です）

不要 ----- 必要度・小 ----- 必要度・中 ----- 必要度・大

1. 本人の特性への配慮をしつつ本人が成長することへの工夫がある。

不要 ----- 必要度・小 ----- 必要度・中 ----- 必要度・大

2. 配慮事項を本人自らが使えるようになるための工夫がある。

不要 ----- 必要度・小 ----- 必要度・中 ----- 必要度・大

3. 家族が本人を十分に理解するための家族支援の工夫がある。

不要 ----- 必要度・小 ----- 必要度・中 ----- 必要度・大

4. 家族の子育て力が向上していくための家族支援の工夫がある。

不要 ----- 必要度・小 ----- 必要度・中 ----- 必要度・大

5. 本人の意思を尊重している。

不要 ----- 必要度・小 ----- 必要度・中 ----- 必要度・大

4. 支援プログラムのニーズについての質問

*ここでいう「支援プログラム」とは発達障害のある人たち（児および者）やその家族に対する様々なものを含みます。例えば、TEACCH、応用行動分析（ABA）、ソーシャルスキルトレーニング（SST）、感覚統合、PECS、発達障害向けの学習プログラム、ペアレント・トレーニング、ペアレント・メンター等です。

1) 現在、支援プログラムを利用していますか。

1. はい (⇒①へ) 2. いいえ (⇒②へ)

①「はい」と回答した人にお聞きします

(1) 現在、利用している支援プログラムの名称を記入下さい

[]

(2) その支援プログラムをどのように見つけましたか。

[]

(3) その支援プログラムに対してどの程度満足しているかについて、以下の4段階のいずれかにチェック (☑) を記入して答えて下さい。

満足していない ----- 満足度・小 ----- 満足度・中 ----- 満足度・大

②「いいえ」と回答した人にお聞きします

(1) どんな支援プログラムを受けたいですか。

[]